

パイロット(試験)輸送に係る検証報告について

- 大量の除染土壌等の輸送に向け、安全かつ確実な輸送を実施できることを確認するため、昨年3月からパイロット(試験)輸送を実施してきた。
- これまで実施してきたパイロット(試験)輸送の検証を行い、有識者からなる検討会等のご意見もいただきながら、結果報告を取りまとめた。今後の輸送については、検証により抽出した対策や改善策等を踏まえ、より安全かつ確実に実施していく。なお、冬季の降雪時の輸送については、降雪時の輸送が終了する時期を待って補足的に検証を行い、追加的にその結果を取りまとめる。

検証結果の総括

- これまでのところ、パイロット(試験)輸送前に想定・準備した安全対策等は概ね想定どおり機能し、また、日々の輸送を実施する中で発見された課題や中間貯蔵施設環境安全委員会等における指摘を踏まえ、関係機関との連携の下、改善策を随時講じることで、安全かつ確実な輸送を実施していると評価できる。
- 今回の検証により、以下のような、今後、検討・実施が必要な対策や改善策が明らかになった。これらを踏まえ、パイロット(試験)輸送での取組を基本としつつ、今後の段階的な輸送量の増加に応じて検討を進め、随時、輸送実施計画等に反映させつつ、具体的な改善策を継続的に講じていくことが必要である。

必要な対策や改善策

積込場からの搬出

積込場の適切な作業スペースの確保、除染土壌等の保管実態に応じた安全かつ効率的な作業手順・作業計画の具体化、幅広い現場発生材の処分ルートの開拓が必要。また、安全かつ確実な輸送を前提として、積込場搬出時の輸送車両周辺放射線量率の測定効率化などが必要。

輸送及び輸送管理

休憩施設の増設、ハード面(道路補修等)及びソフト面(教育・研修等)の道路交通対策の適切な実施、迂回路を含めた緊急時対応に向けた関係機関との連携強化が必要。また、輸送対象物の全数管理及び輸送車両の運行管理を行う総合管理システムの改善・拡張や、地域の復興も見据えた通信不感区域対策の検討などが必要。

保管場

安全かつ確実な輸送を前提として、保管場退出時の輸送車両のスクリーニングの効率化などが必要。

全般

中間貯蔵事業の円滑な推進に向け、自治体や地域住民の皆様の理解と協力を得るための一層の取組を進めることなどが必要。